

# 横浜市インフルエンザ流行情報 6号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

定点あたり 40.0 を超える流行が 3 週間継続しています。

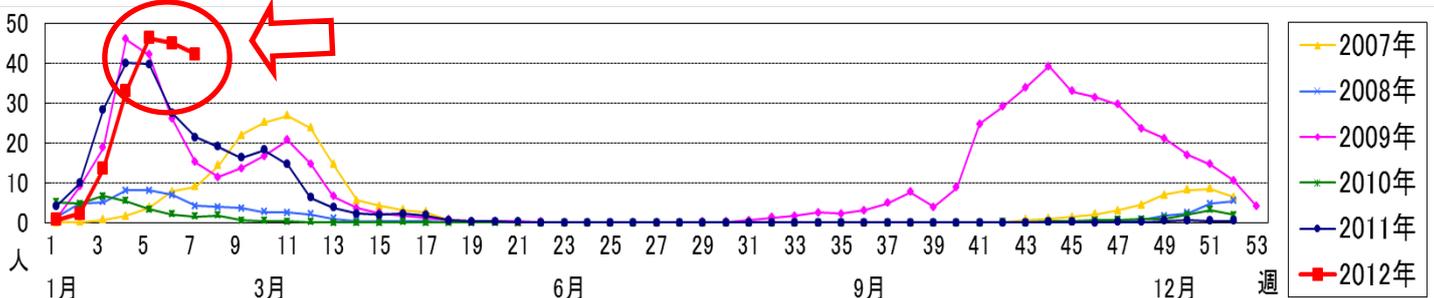
### 【概況】

第7週(2月13日~2月19日)に定点<sup>※1</sup>あたり 42.28 となり、第5週から3週間連続して 40.0 を上回る流行が継続しています。迅速キットの結果では、A型は減少しているものの、徐々にB型が増加しており、流行の継続はB型の流行が関与していると考えられます。A型に感染した人でもB型に感染する恐れがあり、人混みを避け、うがいや手洗いを心がけるなどの対策が引き続き重要<sup>※2</sup>です。

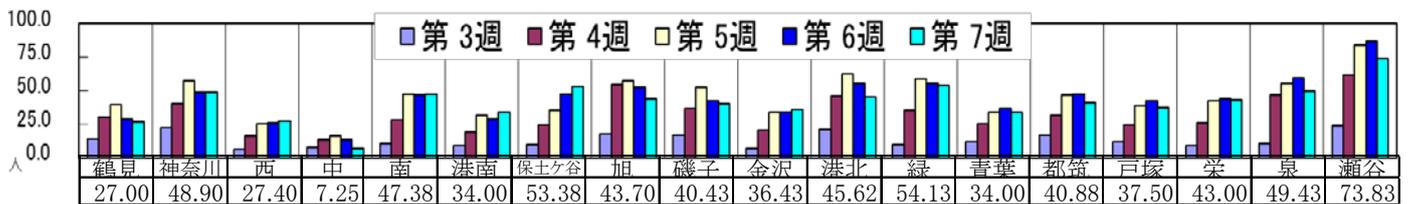
※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

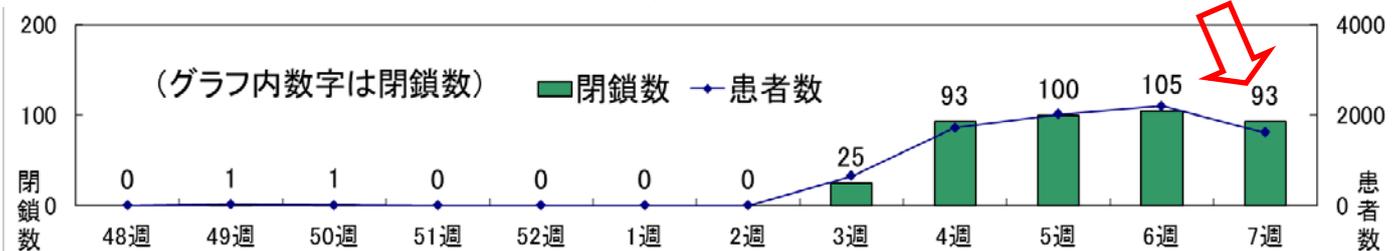
1 市内流行状況: 第7週に定点あたり 42.28 となり、第5週 46.26、第6週 44.98<sup>※3</sup>から3週間連続して 40.00 を上回っています。 ※3 追加報告があったため、前回の流行情報と数字が異なります。



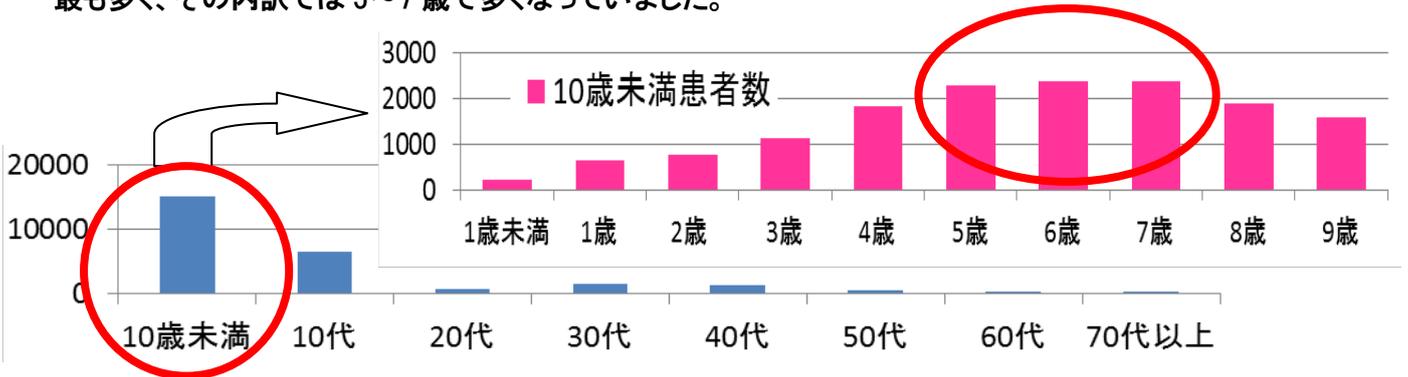
2 区別流行状況: 最も多い区は瀬谷区 73.83 で、次に緑区 54.13、保土ヶ谷区 53.38 などとなっており、依然流行が続いていますが、いくつかの区では減少傾向がみられます。



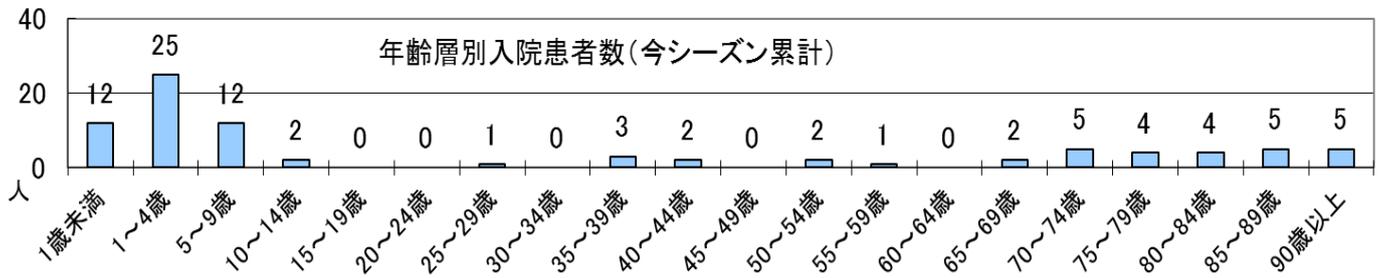
3 市内学級閉鎖等状況: 第7週 93 件と、多い状況が継続しています。施設種別では多い順に、小学校 67 件、幼稚園 19 件、中学校 6 件、高校 1 件です。引き続き各区から報告が来ています。



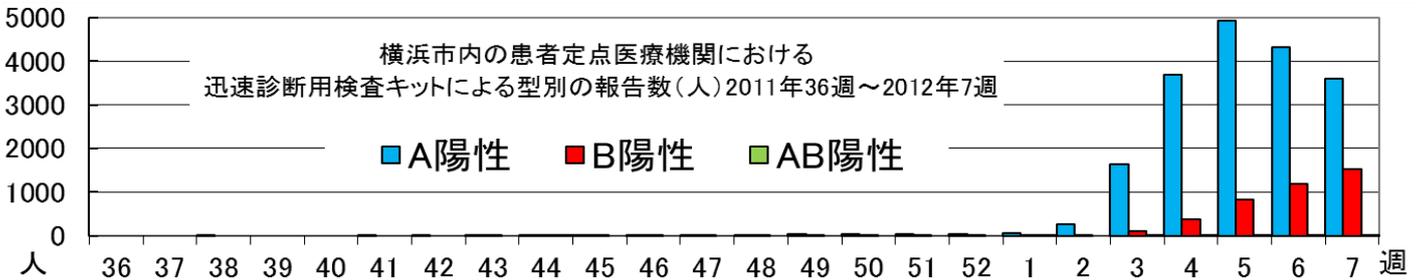
**4 年齢層別集計:**第3週から第7週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~7歳で多くなっていました。



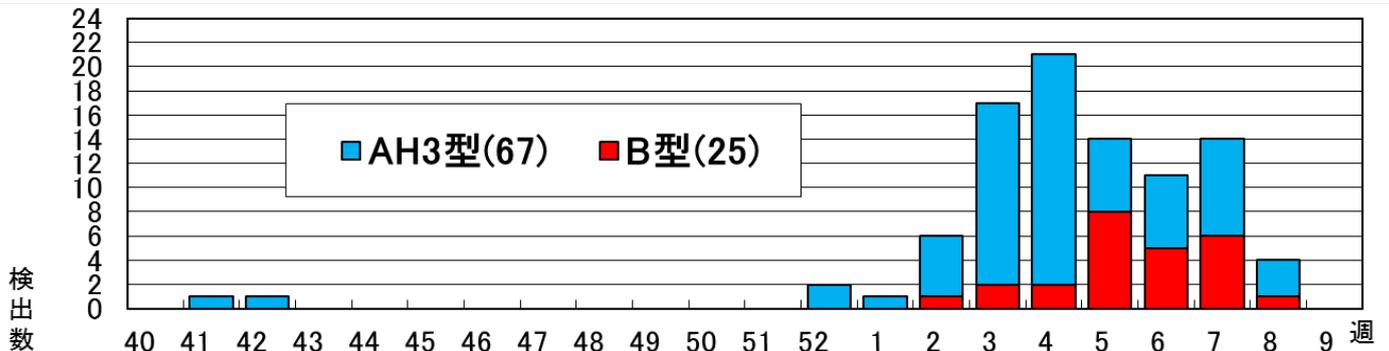
**5 入院サーベランス:**市内基幹定点<sup>※4</sup>医療機関における、インフルエンザの入院患者の年齢別の集計です。10歳未満と65歳以上で入院が多い傾向にあります。小児と高齢者では特に重症化に気を付けましょう。  
 ※4 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。



**6 迅速キット結果:**A型が減っていくとともに、徐々にB型が増えています。迅速キットで判定されたうち、第3週では6.3%がB型でしたが、第7週では29.8%となっています。



**7 病原体検出状況:**市内で92件検出されましたが、AH3型67件(72.8%)、B型25件(27.2%)でした。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463  
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (754) 9816  
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045 (754) 9804